

千葉県勝浦沖キンメ場(安房堆)の海底地形

瀬戸口 明弘

はじめに

千葉県勝浦沖の大陸棚外縁から大陸斜面にかけての海域では、キンメダイ、アコウダイ、ムツ、メダイなどを対象とする立縄釣を、勝浦地区から天津地区の小型漁船約400隻が、図1に示すようにキンメ場を中心に操業し漁獲を上げている。

しかし、漁場となる海域の海底地形を精密に表示し、漁業用として利用可能な海図などが、未だ作製されていないために、漁業者は漁場を効率的に利用し難いばかりでなく、漁業生産の増大も望めない状況下に置かれている。そこでこれらの地区の漁業者の間には、かねてから立縄釣漁場の海底地形図の作製について要望があった。このため今回、立縄釣漁場の海底地形調査を行い、その結果をもとに海底地形図を作製したのでここに報告する。

なお今回、調査を実施した立縄釣漁場は、古くから

これらの地区の漁業者間で、一般に「キンメ場」と呼称されているものであるが、海図には「安房堆」の名称が付けられている。

調査方法

この調査は昭和58年6月14日～16日にかけて、千葉県水産試験場の漁業指導船第2ちば丸を使用して実施した。

調査域は次の点を結ぶ範囲内である。

- イ) 北緯35度00分, 東経140度20分
- ロ) 北緯35度00分, 東経140度35分
- ハ) 北緯34度51分, 東経140度35分
- ニ) 北緯34度51分, 東経140度20分

この区域内を緯度線に沿って緯度30秒(0.5浬)間隔で、また経度線に沿って経度1分間隔で航走(船速8～10ノット)し測深を実施した。測深には海上電機製のW-33HK-33型とW-33CR-52KMD型の魚群

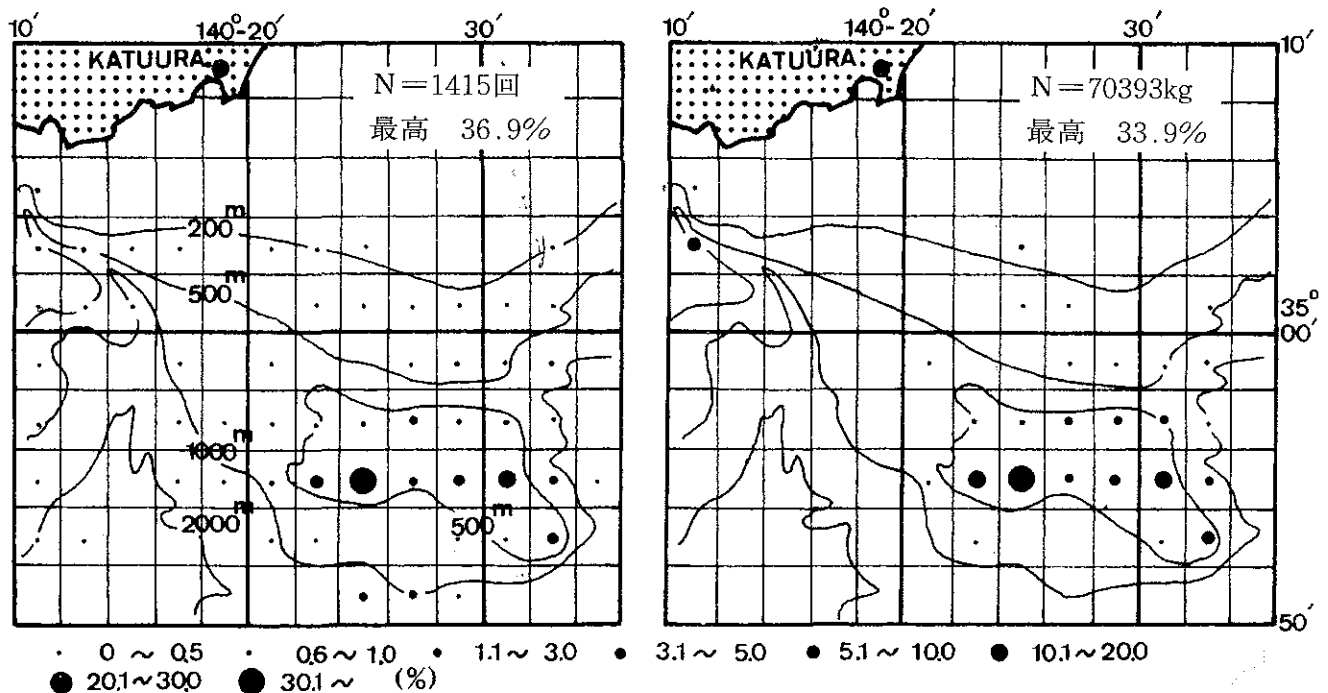


図1 勝浦沖立縄釣漁場利用割合(左図)とキンメダイ漁獲割合(右図)

探知機を使用し、測深記録紙上の5m深を最少単位として読取り測得水深とした。このためにパーチェックや音速および潮汐による水深補正は省略した。

測位には日本無線製SNA-20DA型ハイブリッド航法装置（日本無線製INA-710型ロラン受信機とセナー製MS-3A型デツカ受信機）とX-Yプロッターにより航跡記録を求め、航走時間3分間隔で位置を決定した。

これらの測器類で得られた水深と位置の資料をもとに、10m深ごとの等深線で海底地形図を作製した。作製した海底地形図は、横に47.6cm、縦に33.3cmの図積とし、縮尺は5万分の1とした。

結果と考察

海上保安庁水路部刊行の房総半島東方海底地形図を図2に、今回作製したキンメ場海底地形図を図3に示した。

キンメ場の海底地形は、大陸斜面上にみられる堆状

の地形であり、西側に2,500m深まで落ち込む鴨川海底谷、東側に3,000m深まで切り込む勝浦海底谷、そして北側にこれら両海底谷をつなぐ型で浅くかつ細長く刻まれている勝浦海底地溝などに三方を囲まれ、南側は相模トラフに続く房総海底崖へと落ち込んでいる。

キンメ場の海底面には、400m深あたりから300m深ぐらいまで立ち上がる凸状地形群が、東西に分かれて所在しており、全体像としては西北西-東南東に方向性を持つ鞍状の地形を呈している。そしてキンメ場の最浅部は、西側の凸状地形群で280m深台、東側の凸状地形群で300m深台となっており、どの凸状地形の頂部も平坦となっている。

キンメ場において主に操業対象となる区域は、500m深ぐらいまでであるが、この500m深以浅の海底面の表面積は、およそ11,000haとなっている。

キンメ場の海底地形変化を断面で見ると、北側の500m深から南側の1,200m深までを結ぶ、大陸斜面の基底線上より盛り上がった隆起堆の形態を示している。

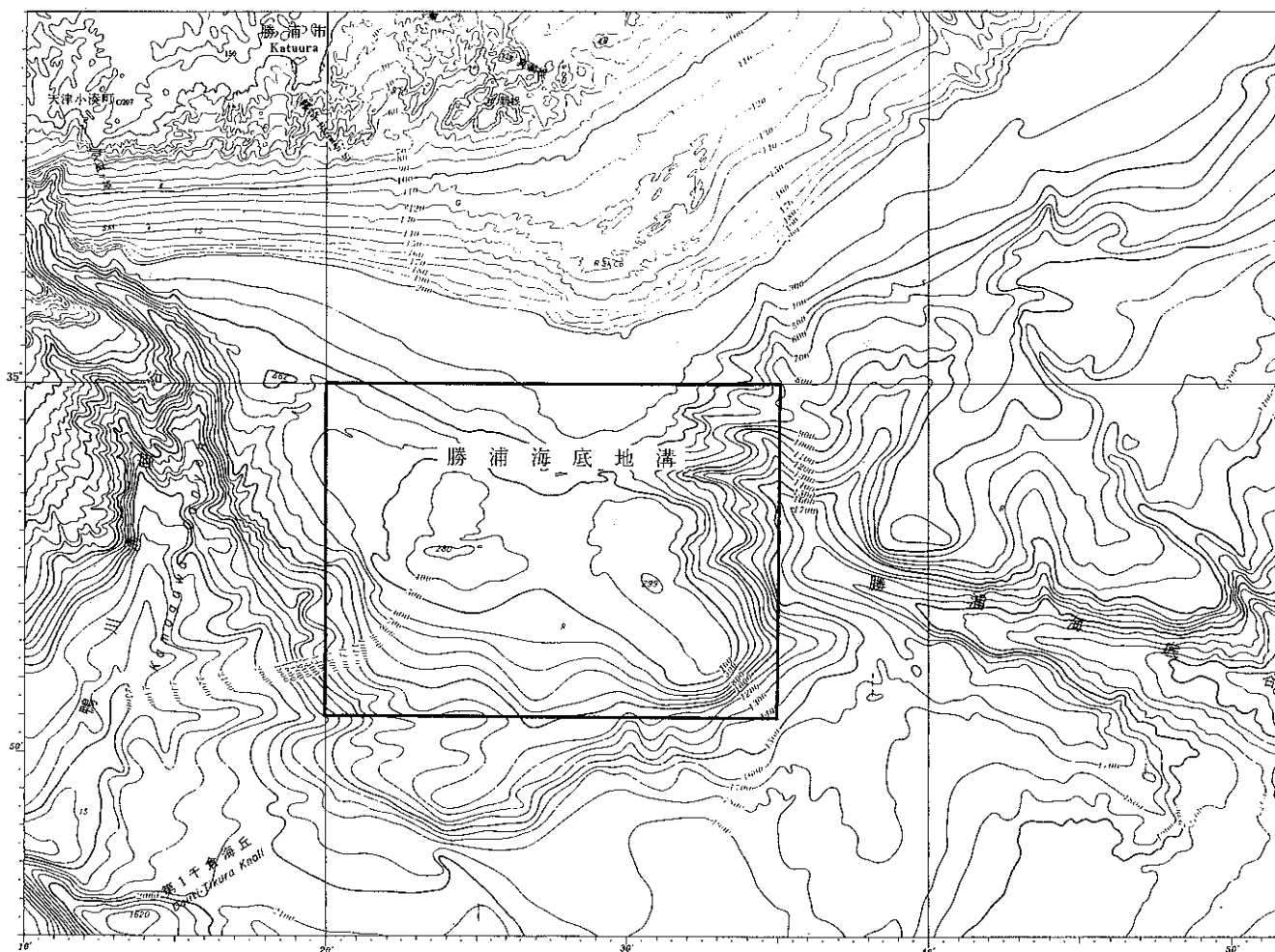


図2 勝浦沖海底地形と調査区域

この海底地形変化をA, B, C, Dの線の断面で示したものが図4である。

A線は西側の凸状地形群上を、東経140度24分の線で東西に分断した断面である。南側傾斜面は110/1000, 北側傾斜面は150/1000の勾配であり、勾配による分類では共に急斜面となっている。また南北の傾斜面に挟まれる間の海底面は、平坦面と緩傾斜面となっている。

B線は鞍状地形の中でも最低部付近を通る断面であるために、陸棚の傾斜変換点もA線より若干南偏している。傾斜面の勾配は南側傾斜面が60/1000, 北側傾斜面が50/1000であり、共に緩傾斜の大陸斜面となっている。

C線では東側の凸状地形群が南東方向に細長く伸びているので、南側の半分についてはこの方向での断面を求めた。この線上での南側傾斜面は勾配がきつく350/1000, また北側傾斜面は180/1000であり、共に急傾斜面となっている。

D線は北緯34度55分30秒の線で南北に分断した断面

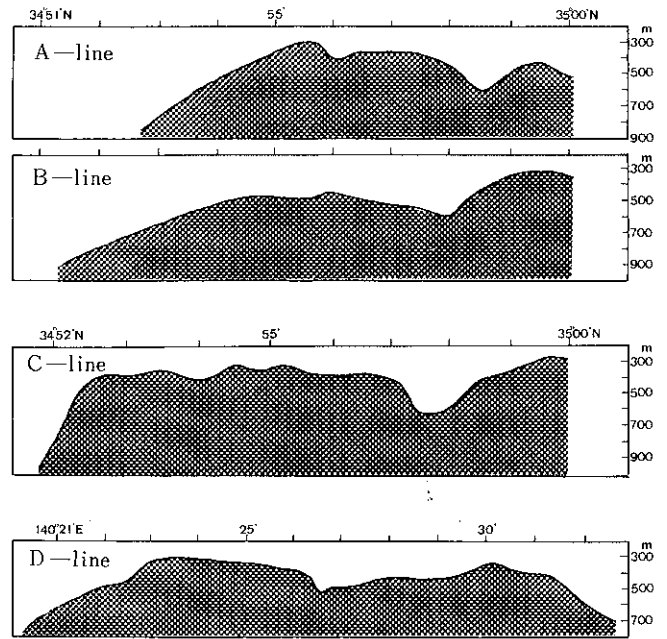


図4 地形断面

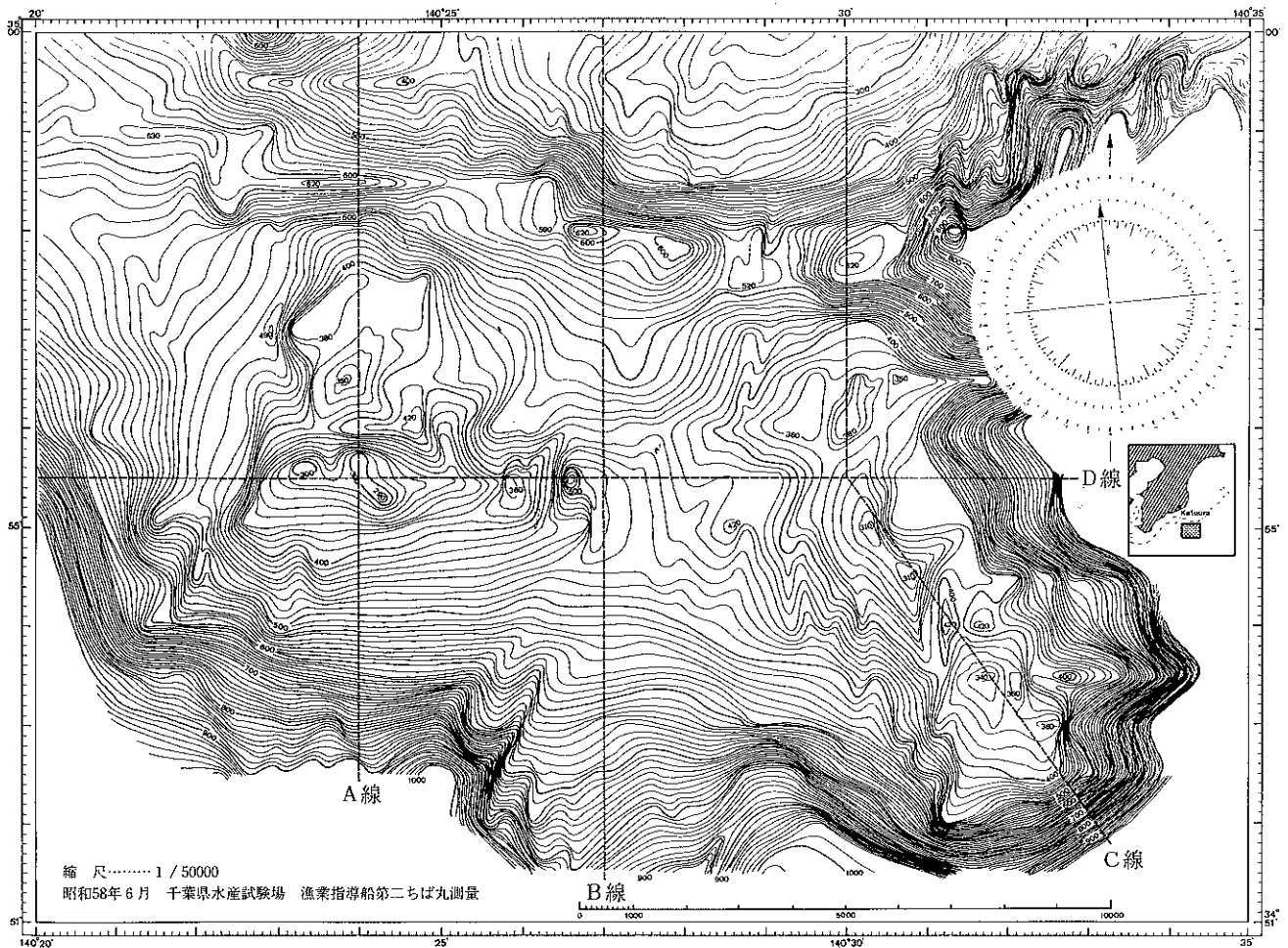


図3 勝浦沖キンメ場海底地形図

である。この断面での西側傾斜面は100/1000、東側傾斜面は180/1000で共に急傾斜となっている。また東と西の凸状地形群の間の傾斜も10/1000以下であり、平坦面となっている。

要 約

- 1) 勝浦沖ではキンメ場を中心に立縄釣漁業が操業されているが、これらの漁場の精密な海底地形図が未だ作製されていない。また勝浦地区から天津地区の漁業者の間に、キンメ場の海底地形図作製の要望があったので、縮尺5万分の1の海底地形図を作製した。
- 2) キンメ場は海図に「安房堆」の名称が付けられているように、大陸斜面状にみられる堆状の海底地形である。
- 3) キンメ場の海底面には、400m深あたりから300m深ぐらいまで立ち上がる凸状地形群が、東と西に分かれて所在しており、これらの最浅部は西側で280

m深台、東側で300m深台となっている。そして全体像としては鞍状の地形を呈している。

- 4) キンメ場の500m深以浅の海底面は、おおよそ11,000haの表面積があり、平坦面～緩傾斜面となっているが、傾斜変換点より以深の斜面は緩傾斜面～急傾斜面となっている。

謝 辞

キンメ場の海底地形調査にあたっては、千葉県水産試験場漁業指導船第2ちば丸の鈴木茂船長以下乗組各員の積極的な協力をいただいた。ここに深く感謝の意を表します。

文 献

- 1) 海上保安庁水路部：海底地形図第6366号
- 2) 海上保安庁水路部：海底地形図第6313号
- 3) 海上保安庁水路部：5万分の1沿岸の海の基本図
海底地形地質調査報告 鴨川湾 昭和59年9月